

故 林 淳三先生
を 偲 ん で



生涯
学べ
林淳三

1983年度関東学院女子短期大学卒業アルバムより

林淳三先生は2021(令和3)年6月8日に永眠されました。享年98歳でした。林先生のご葬儀は、先生のご意思に従い家族葬で執り行われました。ここに謹んで生前の林先生のお働きに感謝を申し上げるとともに、ご冥福をお祈りいたします。最近数年間は、奥様とともに介護付き高齢者施設に入居されていました。数ヶ月前奥様に先立たれた後も、お元気な様子でした。

ここで先生の足跡を振り返りたいと思います。林先生は1923(大正12)年4月2日に滋賀県にてお生まれになりました。滋賀県立八幡商業学校を卒業後、1943(昭和18)年4月に国立の東京農業教育専門学校に入学されました。この東京農業教育専門学校は、後に東京教育大学農学部、現在は筑波大学の農林学類につながっております。東京農業教育専門学校の同窓生の多くは、農業高校の教員を経て校長等の管理職につかれています。しかし、林先生は研究を続けたいとのご意思で、奈良青年師範学校及び滋賀青年師範学校で教鞭をおとりになると共に、研究を続けられました。国内留学で京都大学医学部に派遣されてビタミンB₁、B₂の研究を、さらには、理化学研究所の佐橋佳一先生に師事され、ビタミンB₁₂の研究をされました。特に畜産業では大きな問題となっていた「牛の食わず病」の発症に、ビタミンB₁₂が関わることを明らかにされました。研究をまとめられ1960(昭和35)年に東京農業大学から旧制学位令による農学博士の学位(第32号)を取得されております。

その後、聖徳栄養短期大学(現 東京聖栄大学)を経て、1967(昭和42)年から関東学院女子短期大学にお勤めになりました。その翌年1968(昭和43)年に公選制の初代学長となられてから1988(昭和63)年の間に通算17年間学長として、学校行政に尽力されました。当時の短期大学は、大学のキャンパスの中にあり、学園紛争のため教育環境としては決して良い状況ではありませんでした。そこで林先生が中心となり、六浦キャンパスの南端の、通称ハンソン山の地に、女子教育を行うための環境整備として、1972(昭和47)年から校舎群(1号館～5号館)、体育館、図書館、チャペル等の建設がすすめられました。これと並行して、林先生の主導で、学科及び専攻の増設が行われました。1969(昭和44)年に食物栄養専攻の開設(栄養士養成課程)、1974年(昭和49)年に幼児教育科の開設(幼稚園教職課程、保育士養成課程)、1987(昭和62)年に経営情報科が開設されました。このような数々の業績を残されたのち1995(平成7)年3月に定年退職され、名誉教授になられました。

林先生の業績は、研究活動および学長としての学校行政のみならず、社会活動、学会活動など多岐にわたりました。特に女子の職業教育を推進され、この活動を通して、日本短期大学協会、全国栄養士養成施設協会等の重責をお勤めになり、所属短期大学のみならず、全国の短期大学や養成施設の発展に尽力されました。また、学会活動では、人間の食に関する営みを包括的に包含する学会として、1990(平成2)年10月に食生活総合研究会を創設され、会長に就任されました。さらに、1994(平成6)年5月には、研究会を発展的に改組し、日本食生活学会を創設されました。これは、上述の栄養士養成施設協会のカリキュラム検討の過程で、「食生活論」の構築の必要性を感じ、その学問領域を学際的にカバーする学会の創設につながったと伺っております。学会発足後は、初代

の学会会長として、同学会の基盤を整えられました。また、1996(平成8)年には、食の生産、流通、消費を一元的にサポートする専門家の養成を目的としたフードスペシャリスト協会を設立し、その運営に中心的な役割を果たされました。これらのご功績が認められ、文部大臣表彰(短期大学教育功労者)、厚生大臣表彰(栄養士養成功労者)、全国栄養士養成施設協会会長表彰(事業功労者)等を受けられました。さらには、1996(平成8)年4月に勲三等瑞宝章の叙勲を受けられました。

また、関東学院と同じキリスト教宗派の学校法人彰栄学園に請われて、1989(平成元)年から同学園の学園長兼彰栄保育福祉専門学校校長に、2001(平成13)年からは、理事長に就任されました。彰栄学園においても学園発展に尽力され、介護福祉教育の充実のため介護福祉科の増設、さらには、2004(平成16)年には、彰栄リハビリテーション専門学校作業療法学科を設置されました。

先生のお人柄は、優しく、配慮深く、人の話をよく聞いてくださいました。授業にはとても熱心で、授業に集中できない学生に厳しい注意をされていたようです。しかし、授業を離れた場面では、学生に慕われていたことが思い出されます。また、キリスト教主義による教育を熱心に実践されていました。学問や組織運営においては、ご自分の信念を雄弁に語られ、リーダーシップを発揮されていました。特に印象深かったお言葉として、「私学の教員は、教育研究活動を深めることはもちろんであるが、経営者としての視点を併せ持つことが重要である」があります。会食の席では、健啖家であり、お酒もこよなく好まれていました。笑い顔がとてもチャーミングで、お人柄にひかれる方も多くいらっしゃいました。林先生は、高邁な人格者であり、良き指導者として、私たちに様々な影響をお与えくださいました。多方面にわたりお力を存分に発揮され、大きな足跡を残されました。最後に林先生のご業績に感謝を申し上げ、ご冥福を重ねてお祈りいたします。

2022(令和4)年6月

文責：倉沢新一(林 淳三先生を偲ぶ会実行委員会代表、関東学院大学名誉教授)

林淳三先生のご略歴

- 1923(大正12)年4月2日 滋賀県にて生まれる
1947(昭和22)年3月 東京農業教育専門学校農芸化学科(4年制)卒業
1947(昭和22)年4月～ 奈良青年師範学校、滋賀青年師範学校、滋賀大学学芸学部、滋賀県立農業短期大学、共立女子大学の助教授等を歴任
1960(昭和35)年12月 旧制学位令による農業博士の学位を受ける(東京農業大学第32号)
1966(昭和41)年1月 聖徳栄養短期大学教授就任
1967(昭和42)年4月 関東学院女子短期大学教授就任
1968(昭和43)年10月 関東学院女子短期大学学長就任
1981(昭和56)年4月 関東学院女子短期大学附属幼稚園事務取扱就任〔兼務・～1988(昭和63)年8月〕
1989(平成元)年4月 関東学院女子短期大学特約教授
1989(平成元)年4月 彰栄学園学園長兼彰栄保育福祉専門学校校長就任
1995(平成7)年4月 関東学院女子短期大学名誉教授
2001(平成13)年1月 彰栄学園理事長(学園長、校長兼務)就任
2021(令和3)年6月8日 永眠 享年98歳

(学会および社会における活動)

- 日本栄養食糧学会評議員・永久会員
食生活総合研究会創設初代会長、(同研究会改組)日本食生活学会創設初代会長
日本私立短期大学協会常任理事
全国栄養士養成施設協会常任理事・副会長・監事・相談役
厚生省公衆衛生審議会委員・専門委員会委員、厚生省栄養士管理栄養士制度専門委員会委員、
文部省大学設置審議委員会(短大基準分科会)委員
日本フードスペシャリスト協会常任理事・副会長・専門委員会委員長

(表彰)

- 勲三等瑞宝章叙勲
文部大臣表彰(短期大学教育功労者)、厚生大臣表彰(栄養士養成功労者)
日本食生活学会功労賞

